



園だより

10月号

令和3年9月29日
駿河台大学第一幼稚園
園長 田所 恒子

今年度もいよいよ後半に

8年ぶりに満月と重なった中秋の名月の翌日、多くの子どもが「お月様見たよ」「すごく大きかった」と弾んだ声で話してくれました。日中は身体を動かすと汗ばむ陽気ですが、朝夕は肌寒くなり季節の移り変わりを感じます。令和3年度もいよいよ後半です。

先日の運動会では、保護者の皆様に、感染予防をはじめ多くのご協力をいただきありがとうございました。

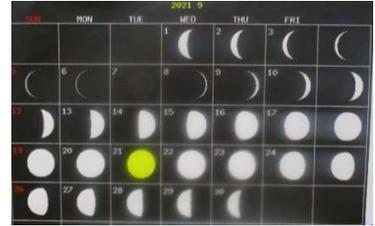
今年度は、デルタ株の感染拡大により夏季休業日を延長しました。そのため、二学期が始まり半日保育が6日、全日保育が2日という「超」がつくほどの短期間で運動会を迎えることになりました。延長が決まった8月末、このような状況下でも、子どもたちにとって楽しく、実りの多い運動会になるようにと、担任は急遽プログラムを見直しました。二学期が始まってからは、身体を動かすことを楽しみながら運動会への期待を高められるように指導の工夫を重ねてきました。

無声援をお願いした今年の運動会は、大変静かな運動会でした。しかし、保護者の皆様の大きな拍手と温かい笑顔の応援は、子どもたちに確実にとどき、力となりました。ありがとうございました。閉会式の折に、「ああ、楽しかった！」との声が子どもからあがりました。子どもたち一人ひとりに喜びや達成感、そして自信に満ちた表情が見られて、とても嬉しくなりました。

短期間の“練習”で迎えた運動会でしたが、子どもたちにたくさんの育ちを見ることができました。4月からの半年間の積み重ねの中で身についた、先生や友達と一緒に遊んだり生活を楽しんだりする力や、身体を動かして遊ぶ楽しさを味わう力などが基盤となって、短期間の“練習”で運動会を楽しむことができたのです。一日一日の幼稚園生活を確実に積み上げていくことの大切さを改めて感じました。

年度の後半が始まる10月には、年少児は、先生だけでなく友達にも目が向くようになり遊びや友達関係を広げていきます。年中児は、運動会の「ソーラン節」や「リレー」での年長児に憧れを抱きながら友達と一緒に遊びを深められるようになります。年長児は、市内の小学校で就学前健康診断が始まり、自分の進学先が分かって小学校への期待を高めていきます。実りの秋は、子どもたちにとっても、大きくなる喜びを感じられる時です。子どもたちの「やってみよう」「やってみたい」という気持ちを実現し、確かな学びをもたらす教育を行ってまいります。

さて、緊急事態宣言が10月1日より解除されるため、年長児は箱根合宿に出かけます。直前の健康診断やご家族も含めた健康の把握、園関係者以外の人との接触をさけた貸し切りの箱根セミナーハウスでの飲食や宿泊、消毒・換気の徹底など、感染予防や安全に十分に気を付けて実施いたします。保護者の方と離れ、先生や友達と一緒に過ごす合宿は、楽しいこと、少し頑張らなくてはならないことなど、日常ではできない貴重な体験ができます。きっと子どもたちは一回り大きく、そしてたくましくなることでしょう。



保育室に貼られた「月のカレンダー」。「昨日のお月様と同じだ」「今日はどんな形?」と子どもの月への関心を高めます。



年少児にとって踊りの立ち位置を示すラインは重要です。長すぎると友達と離れ不安になり、短すぎると狭く踊れません。担任は子どもたちが安定して踊ることが出来る長さを計算してラインを引きました。



年中児は、「WAになっておどろう」の練習の様子を動画で見ました。風に乗る舞うマントの美しさや隊形移動でオリンピックの五輪ができていくことが分かり、さらに踊りを楽しむようになりました。



年長児は、野川公園にドングリ拾いに行きました。色や形、大きさなどが異なるドングリを見つけ、友達と比べたり、気づいたことを伝え合ったりしながら、秋の自然に触れて楽しんでいました。